

【全体テーマ】「心理療法の場で『私』が問われるとき」

主催：開業臨床心理士協会

〒446-0031 愛知県安城市朝日町2-1

日時 2018年2月11日（祝日・日曜日）10時00分～16時15分

会場 名古屋都市センター・特別会議室（金山総合駅前・ポストン美術館上）

<http://www.nup.or.jp/nui/access/index.html>

心理療法は、どんな学派によるものであれ、基本はクライアントと治療者との間の対話的關係です。治療者はこの対話的關係に参加し、様々なやり方で自己（「私」）を使っています。そこには無意識的なものもあります。

本年の心理療法セミナーは、治療者がクライアントから「私」の在り方について問われたり、治療者がクライアントにあえて「私」を語り出すことによって、治療關係に新しい局面が生じる事態に焦点をあててみようと思います。そのことを契機に、心理療法の場に新しい視野が開け、治療關係が前に進むかもしれません。逆にそれが見過ごされているために、關係が停滞しているのかもしれませんが。

心理療法の場で「私」が問われる時というテーマは、クライアントにとっての問題が、治療者にも問われているということを示すものです。「私」への問いかけがどのように生じ、どのように展開するかについて、いつものように事例を通じて、考えてみたいと思います。

医療、教育、福祉、開業など、どの分野で働いていても、「私」の在り方が問われるというこの問題は生じると思います。心ある臨床家および初学者が自己を振り返る機会として、ぜひご参加ください。

<プログラム>

※当協会会員は敬称略

- 9:30 受付開始 全体進行：広藤奈津子
- 10:00 開会の挨拶： 会長 ；宮地幸雄（岐阜カウンセリング研究所）
 午前の部；臨床経験「心理療法の場で『私』が問われるとき」
 司会者 ；手束邦洋（手束心理言語臨床研究所・目白台心理相談室）
 報告者 ；小泉規実男（小泉心理相談室）
 討論者 ；渡辺雄三（渡辺雄三分析心理室・人間環境大学大学院）
 全体討論
- 12:00 昼休み
- 13:00 午後の部；事例検討「30代女性の面接経過と、関わる私 ―中断・再開を中心に―」
 司会者 ；浅井真奈美（日本福祉大学・小泉心理相談室）
 報告者 ；鳥井新子先生（西知多こころのクリニック）
 討論者 ；早川すみ江（日本福祉大学・小泉心理相談室）
 全体討論
- 14:50 休憩
- 15:00 ふりかえりのセッション
 司会者 ；鈴木 誠（くわな心理相談室）
 発言者 ；渡辺雄三（渡辺雄三分析心理室・人間環境大学大学院）
 討論者 ；栗原和彦（代々木心理相談室）
 全体討論
- 16:40 閉会の挨拶 亀井敏彦（はこ心理教育研究所）

参加資格・参加費：臨床に携わっている専門家(7,000円)、臨床系大学院生(4,000円)。

申込方法；参加を希望される方は、①氏名、②住所、③所属（パート開業の方は本職と開業先を連記）、④職種、⑤臨床心理士資格の有無、⑥パソコン・メールアドレス、⑦電話番号、⑧当セミナーをお知りになった経緯、を明記の上、事務局までパソコン・メールにてお申し込み下さい。仮受諾返信と共に参加費の振込先をお知らせします。定員（90名）に達し次第、締め切らせていただきます。日本臨床心理士資格認定協会への研修申請を予定しています。 Email：koizumi0@amber.plala.or.jp

※当協会へのご入会を検討されている方は、事務局までメールにてお問い合わせ下さい。